

## 検討の背景と目的

本町は鉄道がなく、町外の鉄道駅等への移動手段としての役割を担う路線バスが2路線（西能勢線と妙見口能勢線）を運行しています。一方で、町域が98.75km<sup>2</sup>、東西約15km、南北約12kmと比較的広いことから、バス交通を補完するため、平成17年に福祉有償運送、平成19年に過疎地有償運送（現：公共交通空白地有償運送）を開始しています。

しかしながら、公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にあり、バス乗務員は慢性的に不足しており、現在のサービス水準の維持が困難な状況にあるとともに、バス路線の維持についても、地方バス路線維持費補助金の公費負担が増加しています。さらに、高齢化の進展による生活交通に対するニーズの高まりや、高校生等の通学対策など、移動手段の確保がより求められている状況にあります。

このため、地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス、タクシー等の旅客運送の確保をはじめ、その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に向けて、公共交通の目指すべき姿の基本的な考え方をとりまとめたものです。

## 能勢町における公共交通に関する課題

### 課題① 人口減少・少子高齢化の進展への対応

- 人口減少や少子高齢化に伴う通勤・通学利用者の減少やバス乗務員不足による路線バスのサービス水準の低下や路線廃止などの悪循環の防止と改善
- 学生、高齢者の自動車を運転できない方に対する移動手段の確保

### 課題② 将来のニーズを見据えた持続可能かつ安全な公共交通体系の再構築

- 日常生活の移動は自動車に依存しているが、将来、自動車を運転できなくなった場合の移動手段として、公共交通利用の増加が推察されるため、将来にわたって持続性を高め、柔軟な公共交通のあり方について検討が必要
- 公共交通を維持していくためには、住民の合意形成のもとに安全な運行を確保していく必要がある。町内には公共交通空白地有償運送や地域主体のボランティア輸送があるが、安全確保に向けた運行方式による公共交通サービスの提供に向けた検討も必要

### 課題③ 鉄道駅アクセスを支える広域交通の確保

- 町外への通勤通学や日常生活の移動ニーズに対応するため、隣接する市町の鉄道駅を結ぶ広域的な地域公共交通が必要

### 課題④ まちづくりと連携した交通ネットワークの構築

- 商業施設や医療施設等の生活利便施設が集積する西地域をはじめ、新たな拠点として整備を進めている新庁舎の再編整備、旧歌垣小学校の再編整備及び旧東郷小学校の再編整備等のまちづくりと一体となった地域間の交流を促す交通ネットワークの構築が必要

### 課題⑤ 住民・交通事業者・行政の連携・協働による取組の推進

- 公共交通によるサービスが安定的・持続的に提供され続けることが重要
- 今後、増加が見込まれる自由目的移動や公共交通利用のニーズに対して公共交通の持続性を高める観点から、利用者である地域住民が主体となって、公共交通を守り、育てていく意識の醸成が必要

## 公共交通の目指すべき姿の基本的な考え方

上位計画や関連計画、公共交通を取り巻く課題、能勢町における公共交通の考え方及び公共交通の果たすべき役割を踏まえ、以下の基本方針を設定します。

### ① 高齢者や学生等の移動制約者に対する移動手段の確保

今後も生産年齢人口（15～64歳）の減少とともに、人口が減少するものと予測され、将来は更に高齢化が進行するものと予測されている。

更なる高齢化の進展により、自動車での移動が困難になる人や運転免許証を返納する人の増加が見込まれる中で、学生や高齢者の自動車を運転できない方に対する移動手段の確保を目指す。

### ② 新たな公共交通システムの導入による町全体の公共交通の拡充

町内には鉄道駅がなく、路線バスが2路線運行されているが、バス停から離れた地域や運行本数が少ない交通不便地域が存在し、公共施設や商業施設の主要施設も主に西地域に立地しており、自動車を利用できない方には移動に支障を来している。

住民アンケート調査では、デマンドタクシーが運行された場合の利用意向は、「必要な状態になれば利用する」が約6割、「利用する」が約1割であり、自家用車中心の生活から公共交通中心の生活への転換意向は、「将来、高齢になったらできると思う」が約5割である。

公共交通空白地域の解消だけでなく、町全体の魅力を高め、定住・交流を促進するまちづくりのツールとして、かつ将来にわたって持続性を高め、柔軟な公共交通体系の構築に向け、新たな公共交通システムを導入し、町全体の公共交通の拡充を目指す。

また、町内における公共交通の拡充と持続性のあるものとするために、一定の財政投資を行うとともに、交通事業者と連携して利用状況等のモニタリングを継続して実施し、必要に応じた見直しの検討及び実施ができる仕組みの構築を図る。

### ③ 既存公共交通と新たな公共交通システムとの連携強化

路線バスは、2路線を運行されており、町外の鉄道駅等への移動手段としての役割を担っているが、利用者が少なく不採算路線となっているため、路線バスの維持を図るために、「地方バス路線維持費補助金」として、運行経費の赤字分を負担しているが、赤字を全て賄うものではなく、路線バス事業者も多額の赤字を負担し、運行を続けている。また、町内のタクシー事業者は1社であり、他の公共交通機関が運行していない時間帯における住民の移動及び来訪者の移動等の即時対応可能な移動手段としての役割を担う。

このため、路線バスやタクシーと新たな公共交通システムとの機能・役割の棲み分けにより、相乗的な公共交通の利便性向上を図るとともに、住民・利用者ニーズに合致した乗継拠点の整備、既存ストック（主要施設やバス停など）を最大限に活用して公共交通相互の連携・強化を目指す。

### ④ 公共交通をみんなで創り、守り、育てる意識の醸成

公共交通によるサービスが安定的・持続的に提供され続けることが重要であり、住民（地域）、交通事業者、行政等がそれぞれの役割分担のもと、連携・協働し取り組む必要がある。

今後、増加が見込まれる自由目的移動や公共交通利用のニーズに対して公共交通の持続性を高める観点から、利用者である地域住民が主体となって、公共交通を守り、育てていく意識の醸成を図る。

また、公共交通の持続的な運行を確保するため、交通事業者と連携し、公共交通事業の維持に向けた取組や継続性を見据えた担い手の確保・育成等に努める。

## 目指すべき公共交通体系の考え方

町の考え方を示したものであり、  
交通事業者との協議・調整が必要である

今後も持続可能な公共交通のあり方を検討するに当たっては、各交通モード単独で利便性や生産性の向上を図るのではなく、各交通モードで役割分担を行いながら、全体的に連携強化を図る必要があります。

このような考え方のもと、能勢町の公共交通について、現在の運行状況や役割を踏まえ、「基幹交通」、「地域交通」に機能分類し、階層的なネットワークの構築を目指すものとします。

公共交通網の基本的な考え方を踏まえた公共交通ネットワークの構築を目指すべく検討を行うものとします。

表. 能勢町における公共交通の役割分担と位置付け（案）

機能分類	役割	対象交通モード
基幹交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内と町外の鉄道駅を結ぶ広域交通体系の骨格を形成し、町外への通勤・通学等の町民の移動や能勢町への来訪者の移動のための広域的な移動を支える役割を担う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>路線バス（西能勢線・妙見口能勢線）</li> </ul>
地域交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>基幹交通が乗り入れ困難な生活圏内の移動を支え、基幹交通や町内の拠点へのアクセス手段として、町内移動を支える役割を担う</li> <li>基幹交通では、対応しきれない需要が分散・少ない地域を補完する新たな公共交通として新たな交通システム（※交通モードは今後検討予定）を『地域交通』として位置付ける</li> <li>タクシーは、他の公共交通機関が運行していない時間帯を補完するとともに、住民及び来訪者の移動等の柔軟に対応可能な移動手段として、能勢町の公共交通として位置付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな交通システム</li> <li>タクシー</li> </ul>



必要に応じて  
連携

### 特定の利用者を対象とした交通

- ・自家用有償運送（公共交通空白地有償運送・福祉有償運送）
- ・スクールバスや民間送迎バス
- 道路運送法上の許可・登録を要しない輸送
- ・無償運送（ボランティア輸送）

## 能勢町の目指すべき将来の公共交通ネットワーク

町内の拠点間、町内の拠点と町外の鉄道駅間、あるいは拠点と居住エリアの移動をスムーズにし、町民の外出機会を創出するとともに、拠点に人を集めることで、地域の活力向上を促すことと、乗換えの拠点を設けてそこで基幹交通と地域交通を乗り換えて輸送の効率化を図る公共交通ネットワークの構築を目指します。



町の考え方を示したものであり、  
交通事業者との協議・調整が必要である

- ◆基幹交通は、町内の交通結節拠点と町外にある能勢電鉄の鉄道駅を結ぶ
- ◆地域交通は、町内の各地区と町内の拠点となる交通結節拠点を結ぶ

町の考え方を示したものであり、  
交通事業者との協議・調整が必要である

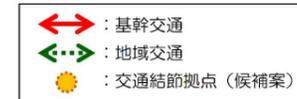
### ◆ 新庁舎の再編整備



### ◆ 旧歌垣小学校再編整備



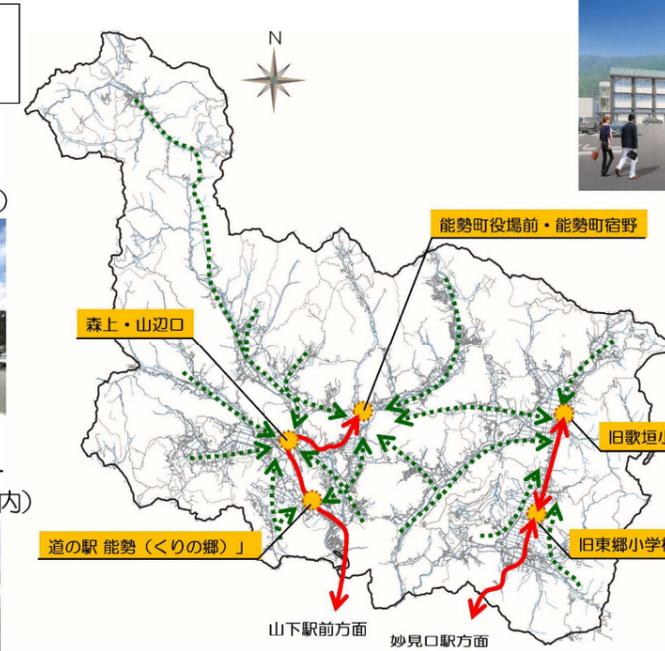
### ◆ 旧東郷小学校再編整備



### ◆ ノセボックス（スーパーマーケット）



### ◆ 能勢町観光物産センター（道の駅：能勢くりの郷）



※ 基幹交通の運行区間は路線バスの利用実態など、交通結節拠点（候補案）は、各再編整備事業の進捗に合わせて設定するものとする

図. 能勢町の目指すべき将来の公共交通ネットワークイメージ（案）

## 新たな交通システム導入の考え方

町内には路線バスが運行していない地区が存在しており、公共交通機関だけでは十分なサービスが確保できないことから、NPO法人等が行う輸送サービスである「公共交通空白地有償運送」が導入されていますが、会員登録を必要とする特定多数を輸送する交通システムです。

現在は、自動車を利用した移動が主体ですが、高齢により自動車の運転が困難になることで、新たな移動ニーズが生じる可能性が高くなることから、将来を見据えた持続可能で適正な規模の公共交通システムが必要です。

また、既存の路線バスや公共交通空白地有償運送の利用状況を踏まえ、利用者は僅少であることが想定されることから、需要規模に応じた交通モードを選択する必要があります。

町内にはタクシー事業者が存在し、事業者によるサービスの提供の可能性があるとともに、安全確保の観点も踏まえ、新たな交通システムはタクシーを活用するものとし、新たな交通システムは「デマンド型乗合タクシー」を想定します。

## 新たな交通システム導入と合わせて検討が必要な事項

基幹交通である路線バスのネットワークの見直しにより、乗継拠点において、基幹交通と地域交通との乗継利用が新たに発生します。

乗継利用時における料金負担の軽減を図るために、新たな料金体系の導入に向けた検討が必要であることから、交通事業者とともに検討を進めるものとします。